

2023年度 春季研究大会
2023年5月27日（土）

基調講演
（対面＋Zoomライブ配信）

日本の英語教育の学術トレンド：
社会学的考察

寺沢 拓敬先生
（関西学院大学）

□ 概要：

日本の英語教育研究のあり方はいかにあるべきか。この壮大な問いについて、事実レベル（どうなっているか？）と規範レベル（どうあるべきか？）の両方の観点から論じたい。いずれも、社会学的な観点——つまり、学会や研究者が作り出す英語教育学的知識と社会的コンテクストの連関——から検討する。講演前半は、私が行った英語教育学の学術トレンド分析の結果を紹介し、事実レベルの検討にあてる。後半は、応用言語学の社会運動・社会変革における役割を検討した様々な研究を紹介し、規範レベルの検討を行う。



□ キーワード：英語教育研究、学術トレンド分析、社会運動

◆ 略歴：博士（学術）。関西学院大学社会学部准教授。専門は、言語社会学・教育社会学・応用言語学。とくに、日本における外国語をめぐる世論・言説・政策を研究している。最近ではアジア各地域における英語をめぐる政策・言説にも関心がある。近著に、『小学校英語のジレンマ』（単著）、『英語教育のエビデンス』（共著）

外国語教育メディア学会（LET）関西支部事務局

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学外国語学部

田村 祐 研究室

E-mail: kansaillet@gmail.com

ワークショップ1 (対面+Zoomライブ配信)

「そこにAIはあるのか？」：

ChatGPTによる外国語教育実践・研究の革新

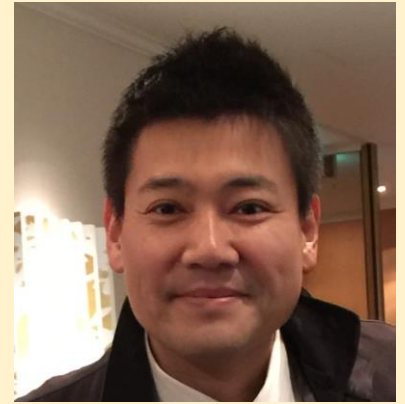
水本 篤先生
(関西大学)

□ 概要：

本ワークショップでは、2022年11月30日に公開されて以来、世界中で大きな反響を呼んでいるChatGPTを、外国語教育の実践および研究においてどのように活用できるかを解説し、ハンズオンで教材作成や論文執筆におけるChatGPT活用の具体的な方法を学ぶ。ChatGPTは、現在その利用方法が教育現場で検討されている段階であるため、参加者同士の意見交換も行う予定である。

□ キーワード：ChatGPT、教材作成、論文執筆

◆ 略歴：関西大学 外国語学部・外国語教育学研究科 教授。専門はコーパスの教育利用，語彙学習方略，言語テスト。近年はコーパスを利用した学習と指導に関する研究を主に進めている。著作に、『外国語教育研究ハンドブック（増補版）』（2023年，松柏社，共編著），『ICTを活用した英語アカデミック・ライティング指導—支援ツールの開発と実践—』（2017年，金星堂，編著）などがある。



ワークショップ2 (対面のみ)

外国語教育研究のための会話分析入門：
トランスクリプト作成法からの出発

横森 大輔先生
(京都大学)

□ 概要：

会話分析(CA)は、人々が他者との相互行為をどのようにして営んでいるかを、実際の録音・録画データの分析に基づいて明らかにする研究枠組みである。外国語教育研究の文脈では、学習言語による会話場面はもちろん(母語使用の場合も含めて)様々な学習活動の分析にCAを利用することができる。本WSでは、録音・録画データからトランスクリプトを作成する過程の体験を通じて、CAによるデータ分析の特徴とその強みについて検討したい。

□ キーワード：会話分析、録音・録画データ、トランスクリプト、相互行為

◆ 略歴：京都大学国際高等教育院准教授。日本学術振興会特別研究員PD、九州大学言語文化研究院助教、准教授を経て現職。専門は相互行為言語学および会話分析。日本語の日常会話を中心に、英語の日常会話や日本語話者による英語学習場面も含めた多様な録音・録画データを用いて、相互行為の観点から言語使用の動態を明らかにする研究を行っている。

